

東京庄原格致会会報

二十一年度総会報告

平成二十一年度(第二十七回)総会並びに懇親会が、昨年十月十八日(日曜日)に上野精養軒・日本橋店において盛大に催されました。会員四十三人、来賓・同伴者六人の参加をえて、定刻十二時に八谷英樹幹事長(三十五年卒)の司会で開始され、冒頭、六人の会員の方の訃報に対してご冥福を祈り黙祷が行われました。

次いで、合田良三会長(三十三年卒)から東京庄原格致会運営にあたっての六つの活動目標が表明されました。

来賓挨拶として母校から参加いただいた福山友善校長先生から同窓会活動の重要性などについてのお祝辞を、また、母校同窓会幹事長の藤原敦善様から「ふるさと納税」などのお話をいただきました。

次いで総会・議事に移り、二十事業年度の事業報告・会計報告が承認されました。

第二部の懇親会は、福場美知留副幹事長(四十五年卒)の司会のもとで、参加者最年長の平田耕司顧問(二十年卒)の再会を祝う挨拶を皮切りに始まりました。

途中で近畿庄原格致会・児玉憲夫会長と庄原実業同窓会東京支部・津田弘之事務局次長並びに世羅高校東京校友会・花村副会長から祝辞を頂き、続いて大岩征子さん(三十七年卒)の指導で郷土に伝わる「敦盛さん」を歌い、懇親の輪が盛り上がりしました。

最後は、全員による「校歌・応援歌」の斉唱の後、坂井昌彦顧問(二十四年卒)の発声で中締めが行われ、来年の再会を約束し、「カルビー商品」の入った大きな袋を抱えての散会となりました。

(事務局)



出席者全員でパチリ

第18号
2010年9月

発行人・合田良三
編集人・寺川勝海
印刷所 (株) クレスコア
コミュニケーションズ

出席者名簿

福山友善	庄原格致高校校長	平田耕司	昭和二十年卒	(庄原西浦)
藤原敦善	庄原格致高校同窓会常任幹事長	八谷義登	昭和二十年卒	(庄原西浦)
兄玉憲夫	庄原格致高校同窓会会長	山田健太郎	昭和二十三年卒	(峯田)
津田弘之	近畿庄原格致会会長	坂井昌彦	昭和二十四年卒	(庄原本町)
花村八郎	庄原実業高校同窓会事務局次長	滑年雄	昭和二十四年卒	(本郷)
	世羅高校東京校友会副会長	金森裕雄	昭和二十五年卒	(総領)
		室伏孝一	昭和二十六年卒	(山内西)
		岡田昌人	昭和二十六年卒	(庄原)
		三浦重造	昭和二十六年卒	(比原)
		保田治義	昭和二十六年卒	(庄原)
		佐竹幸二	昭和二十八年卒	(川北)
		兼利卓蔵	昭和二十八年卒	(川北)
		近藤正昭	昭和三十年卒	(西城)
		渡利治博	昭和三十年卒	(西城)
		信清治	昭和三十一年卒	(新庄)
		上岡昭二	昭和三十一年卒	(口和)
		加藤哲治	昭和三十一年卒	(本田)
		中尾唯之	昭和三十一年卒	(本田)
		長尾文雄	昭和三十一年卒	(本村)
		生田八洲紘	昭和三十三年卒	(濁川)
		合田良三	昭和三十三年卒	(川北)
		森沢進	昭和三十三年卒	(川北)
		森田芳徳	昭和三十四年卒	(山内西)
		積田弘佳	昭和三十五年卒	(口和)
		八谷英樹	昭和三十七年卒	(比和)
		遠藤靖夫	昭和三十七年卒	(高)
		寺川勝海	昭和三十七年卒	(西城)
		大岩征子	昭和三十八年卒	(庄原本町)
		天野昭昭	昭和三十八年卒	(庄原本町)
		塚原通彦	昭和三十八年卒	(総領)
		川野正江	昭和三十八年卒	(西城)
		渡邊千草	昭和三十八年卒	(川西)
		渡邊俊昭	昭和三十八年卒	(川西)
		田中文男	昭和三十八年卒	(板橋)
		田辺実	昭和三十八年卒	(峯田)
		花田和教	昭和三十八年卒	(西城)
		迫田秀明	昭和三十八年卒	(大久保)
		福場美知留	昭和三十八年卒	(庄原)
		奥重秀彦	昭和三十八年卒	(口和)
		田原英樹	昭和三十八年卒	(総領)
		矢吹文伸	昭和三十八年卒	(峯田)

氏名の中の()は旧姓

二十一年度

総会・懇親会のご案内

十月二十四日(日)

上野精養軒・日本橋店にて開催

今年度の総会・懇親会を例年通り、十月二十四日に開催いたします。

会場は毎年好評を頂いております上野精養軒・日本橋店でございます。

昨年度総会に出席頂いた母校の校長先生にご出席をいただくほか、伊達同窓会会長にもご参加頂くようお願いしております。

広島弁で楽しい会になりますよう皆様の多数のご参加をお待ちしております。

一、日時 平成二十二年十月二十四日(日)

(受付開始は十一時三十分から行います)

懇親会 約二時間程度

お開きは十五時三十分を予定しております。

二、場所 上野精養軒 日本橋店

中央区日本橋室町一五三

福島ビル九階

電話〇三三三四一―二七四一

三、会費 八千円

(但し女性並びに同伴頂く方は七千円です)

※年会費二千元については、当日受付でも承ります。

東京庄原格致会 役員名簿

(22年9月1日現在)

顧問 平田 耕司(二十年卒)	副幹事長 花田 和教(四十一年卒)
金井 裕彦(二十四年卒)	幹事 哲治(三十二年卒)
坂井 昌彦(二十五年卒)	幹事 芳徳(三十四年卒)
酒井 久幸(二十五年卒)	幹事 通彦(三十八年卒)
室伏 孝一(二十五年卒)	幹事 千草(三十八年卒)
保田 治義(二十六年卒)	幹事 建治(三十九年卒)
友成 寿(二十七年卒)	幹事 秀明(四十一年卒)
兼利 卓蔵(二十八年卒)	幹事 久恵(四十一年卒)
渡利 治博(三十年卒)	幹事 秀彦(四十七年卒)
渡邊 俊昭(三十八年卒)	幹事 玲児(四十七年卒)
吉田 治(三十八年卒)	幹事 文伸(五十八年卒)
石井 美佐子(四十八年卒)	幹事 修治(六十一年卒)
近藤 正昭(三十八年卒)	幹事 靖夫(三十七年卒)
遠藤 靖夫(三十七年卒)	

東京庄原格致会の発展を願って

東京庄原格致会会長

合田良三



【略歴】
川北町出身。昭和三十三年母校卒。神奈川大学卒業後（株）みつわ（宝石業界）入社。

会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は会の活動について何かとご協力賜り役員一同感謝しております。

今年の会報の「郷土だより」では、昨年の三月に新市庁舎が竣工し、職員の皆様は新たな気持ちで業務を遂行されているとのこと、庄原市の更なる発展を期待しております。

今年三月二十二日のNHK総合テレビ番組「ホリデー」に、中国山地の山間の庄原市、この町に全国屈指の写真館がある庄原格致高校写真部が紹介・放映されました。部員が写真撮影にあたり心の葛藤など一生懸命取り組み姿、そして田村先生の心のこもった指導、地域の方々の真摯な交流の中から部員の感性を引き出し魂のこもった写真を写し出すことで全国屈指の写真部が育つのだと感心しつつ、母校の活躍を喜びながら観ました。

また、七月四日（日）にはNHKのど自慢が庄原市民会館から放映されるなど、活気のある良いニュースが関東地域にも伝わっており嬉しい次第です。

昨年以來、昭和に活躍された著名人、芸能人が多く亡くなられており、私の年代でも昭和がますます遠くなったように思われます。今は物質的にはお金で何でもそろそろ時代になっていますが、その反面、人との「絆」が少々薄れているような気がします。同窓会はその「絆」を深め、確認し合うには最高の場だと考えます。懇親会で互いに盃を酌み交わし、旧友と語り合うことこそ若さを蘇らせる源ではないでしょうか。

関東地域で活躍しておられる母校卒業生の「絆」を深めるためにも役員一同更に努力しなければと考えております。

現在、会が取り組んでおりますゴルフ、囲碁、バス旅行の同好会各行事に多数のご参加をお願いすると共に、東京格致会のホームページで会の活動状況を発信しておりますので、是非ホームページを開いていただき、皆様からのご提案、ご意見、会員の情報などを投稿欄にお寄せください。情報が豊富であればあるほど会の活性化につながると思います。この一環として、母校の福田校長先生のお力添えにより、母校のホームページとリンクできるような準備を進めて

いただいておりますので、母校とのパイプがますます太くなっていくことが期待されます。

年間を通して活気ある活動を実現することにより総会、懇親会が盛り上がり、その結果、郷土との繋がりと同窓生の「絆」が深まるものと思います。それを旨にして役員一同一層の努力をいたしますので、会員の皆様にも更なるご協力・ご支援をお願いいたします。

終わりに皆様のご健勝と後多幸をお祈り申し上げ、来る十月二十四日（日）に開催します総会、懇親会で一人でも多くの皆様とお会いできることを心から願っております。

（六月初旬記）

汗と涙



広島県立
庄原格致高等学校校長
福田友善

【略歴】
昭和四十八年庄原格致卒、昭和五十三年採用、三次工、三次、呉宮原、三次定等に勤務。広教委勤務四年。

二年間続けて東京庄原格致会総会に出席させていただきました。多くの方が集まっておられ、私も「敦盛さん」や現在の校歌や旧制中学校時の校歌を聴いたり歌ったりし、楽しい一時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

また、今年度は五月二十二日の格致高校文化祭に、東京在住で落語家の林家木久扇（木久蔵）門下の林家ひろ木さん（平成十年卒）の落語、津軽三味線、落語教室をお願いしています。六月二十五日には、東京庄原格致会の大岩さんの温かいお言葉に甘えて、本校でオペラの鑑賞と講演会をお願いしています。本校の生徒たちに芸術・芸能を鑑賞させるだけでなく、「夢を持ち、それを叶えること」を教えていただくことになりました。このようなことが実施できるのも、同窓会のお陰と感謝申し上げます。

さて、今年度初めてPTA会長と協議して「汗と涙」と記したエンジ（スクールカラー）をバックカラーとする応援旗を二枚購入しました。「汗と涙」という言葉は本校の第二校訓として使われています。その意味を格致高校百年誌から探してみると、「汗」はたくましさであり、自身自身に打ち勝つ強い精神力であり、創造への営みである。そして、懸命に真心を尽くして努力し、たゆみなく道を開拓する厳しさ、奉仕強調の精神である。「涙」とはおおらかさであ

り、感謝の心であり、共に人間としての「いのち」を尊び讃え合う喜びであり、そして、真・善・美に対する感動であり、苦楽を分かちやさと深い思いやりの心である」と記録されています。

創立八十五周年行事の時に、当時の伊達正治校長（現同窓会会長）が、「格致致知」の解釈に「新たに汗と涙」という言葉で象徴される解釈を加え、正門脇に石碑として残されたのです。さらに、学校ではこの教を「格致マインド」「格致魂」「誠意正心」という言葉で表現し、生徒たちに伝えようとしています。文部科学省が策定した学習指導要領でこの四月から高校でも道德教育を進めていくことになりました。本校のこのような教育方針が活きる時代になったものと感じています。

今年度の新生百十五名は、入学式、新入生歓迎遠足、オリエンテーション、合宿地区総合体育大会、格致祭（文化祭）等に参加する中で、格致高校生としての自覚も生まれ、我々教職員も大きな期待をされているところで、今年は、卒業生の三〇％を国公立大学に合格させることと、生徒をインターハイ出場させることを目標として、進路指導や部活動を充実させたいと考えています。

今年度も庄原格致高校は元気のよいところを發揮していきますので、よろしく願います。（五月記）

慎独



同窓会会長
伊達正治

【略歴】
昭和十八年卒。母校の校長及び他の高校長を歴任。広島県立公立高等学校校長協会会長。文部大臣教育表彰・勲四等瑞宝章叙勲受賞。現在、庄原地区福祉協議会会長

桜の花に雪が舞うという今春は、異常続きの天候でした。会員の皆様にはいかがお暮らしですか。御壮健にてご活躍のことと拝察申し上げます。平素は母校庄原格致高校へ遙かなる東京方面から熱い思慕の念を寄せられ、同窓会の発展充実に協力いただき、厚くお礼申し上げます。今春三月には母校を卒業した後輩たち一・二名の同窓会への入会式を体育館で挙行し、若さと情熱に溢れる新会員が入会されました。会員皆様と共に歓迎するものであります。

扱って、最近では政界の動向に関する報道が騒々しい毎日ですが、昨年度の総選挙で国民は五〇年余も続いた長期政権ではなく新しい政権を選び政権の交代を実現しました。

試行錯誤しながら挑戦的な政権運営をしている新政権は、発足してまだ一年も経過していない現在、メディアの新政権に対する誹謗中傷は余りにも同一歩調的な報道がなされているように思われます。物事には必ず両面がある筈で、政権が交代して良かった点も実績として幾つか言挙げ出来るものがあります。人心に与える影響の大きなメディアの在り方は極めて重大です。政権交代はしたが前の政権と同じ「狼（むじな）ではないか」と一面的に批判し国民の心情をおおって失望落胆させ、結果的に政治への不信、無関心層を増大させると、嘗て日本が歩んだ不幸な道にはまり偏向政治を許すことになりはしないかと、却ってそのことが心配です。

古代中国の書「大学」に「慎独」という言葉があります。「君子は必ずその独りを慎むなり」と言って、一人でいる時の慎みが大切なことを教えています。即ち、自己を確立して良心に恥じることをしないと意です。情報過多の現代、画一的なメディアの論調に惑わされて自分を見失って世の流れに迎合するのではなく、一人ひとりが健全な判断力をもって「独りを慎む」ことを主眼に生活するならば、より良い主権在民の民主主義社会の成長が期待され、ゆるぎない平和国家としての道を歩むことが出来るのではないのでしょうか。駄文を記し、会員の皆様のご健勝を祈念してご挨拶いたします。（五月記）

会員だより

四十年前の「懐かしい思い出」

二十八年卒

近藤正昭



【略歴】
西城町出身。大阪工業大学土木科卒業。関電興業を経て藤田組（現フジタ）入社。主に都市土木現場などで活動。平成四年に定年退職

藤田組入社後は、主に都市土木の現場に従事しました。自慢になる話ではありませんが、東京と大阪を三十年間で五回転動したことになります。

さて、記憶を辿ってみますと、約四十年前に神戸の湊川で、神戸電鉄発注の湊川線変更工事(地下鉄)を受注し、この工事の主任技術者として小生が配属されました。難易度の高い地下鉄工事、地下鉄線を営業しながら、地下で新聞まで延長するものでしたが、無事竣工することができました。続いて隣接する湊川公園の地下駐車場及び湊川トンネル拡幅改良工事も受注することができ、小生が責任者として担当することになりました。そこでこの工事の竣工時に、神戸新聞が記事にした内容を「懐かしい思い出」として紹介します。

―神戸新聞(昭和四十五年四月二八日付)―『全国的な市街地再開発ブームである。神戸市内では西神副都心に続いて、湊川一帯がすっかり生まれ変わった。名物だった神戸タワーが姿を消し、新しく噴水のある近代的な公園が一部完成した。同時に地下駐車場の出来上がり、トンネルもグンと大きくなった。』あのひとこと、あれだけで私は嬉しいんです。湊川改造工事を手がけてきた藤田組の湊川地下・同トンネル作業所長の近藤正昭さん(三十五歳)は、昼下がりの公園でこう語る。いま、そばを通り過ぎた若い女性たちの「きれいになったわね」「見違えるほどね」という会話が、近藤さんの耳には無上のねぎらいのことになるようだ。

近藤さんは過去十五年間、地下鉄、道路整備工事ひと筋に生きてきた。土木工事の虫。去る四十一年、神戸高速鉄道の南北線開始当時、神戸に転勤となり、以来五年間、相次ぐ大型工事の責任者としてプレハブの事務所に住みついた。市街地を再開発して、新しい都市機能を植えつけることは大切なことだと思ひ、今後再開発熱は更に高まるだろう。再開発は、工事以前の段階でさまざまな曲折があるようだが、計画が正しい限り、その結果は必ず住民にハネ返ると思う」というのが近藤さんの再開発に対する考え方。

湊川一帯は、地下鉄、商店街、駐車場、公園が立体的にレイアウトされており、全国でも珍しい町づくりといわれている。とくに、目下盛んに開発が進められている北神地区という「マンモス背後地」をひかえているだけに前途はバラ色といえる。「我々の仕事は未来を開くという使命感があるし、私自身もそれを生かしていっている。ただ、工事が大型化すればするほど、工事の安全確保が要求される。同時に、私はツキというものを大切にしていきたい」と語る。三十五歳という青年所長だが、細かい神経の持ち主で、全作業員に安全の「お守り」を持たすなど「古

風なよさ」をのぞかせる。「都市開発とお守り」、人間の温か味を感じさせるコントラストだ。

以上が神戸新聞の記事です。なお、この記事の件については神戸新聞で「ひろく」をテーマに特集版が企画され、市街地の再開発として、総合開発を手がけている未来をひらく藤田組(デベロッパ)が選ばれたと取材に来た記者から聞いています。末筆になりましたが、皆様のご健勝をお祈りいたします。

太りにくいカラダ造り

四十五年卒

福場 美知留



【略歴】
大学卒業後、臨床検査技師として九年間病院勤務。退職後自宅にてエステサロン開業。化粧品のメーカーを設立。その後フリーとなりエステティシャン、アロマセラピスト養成スクール開校。現在「美容・健康アナリスト」として企業やスポーツジム、看護師協会、地域団体等で講演活動中。

私たちを取り巻く食事情は大きく変貌を遂げています。五十年前には、お肉を食べるのは特別な日に限られ、クリスマスに食べた鶏の脚のおいしさは今でも脳裏に焼き付いています。また、給食に出てきたクジラの唐揚げもスペシャルメニューで人気の的だったことを思い出します。あの頃は一日の摂取カロリーが提唱され、食事の内容よりもむしろカロリーが強調される時代でした。元気に生活するためにしっかりと食べましょうという時代でした。

あれから五十年。誰でもいつでもどこでも何でも食べられる時代がやってきました。と同時に「生活習慣病」「メタボリックシンドローム」という言葉が生まれ、食べ過ぎに警鐘が鳴らされています。そして、現代人の栄養状況を「栄養過剰の栄養失調」という言葉で表すようになりました。たくさん食べているのだけれど、栄養のバランスが悪いというのです。実際、糖質、脂質、たんぱく質は摂りオーバーで、ビタミンとミネラルは全く足りていません。

最近の若い人たちの間で流行っている「アゲラー」・・・これは、ほとんど毎日唐揚げ、フライなどの揚げ物食べている人のことを指すようです。

考えただけでも胸やけしそうですよね。

私は、これまでエステティシャンやセラピストの育成を行い、現場では多くの方の美容と健康の悩みに向き合ってきました。そして強く感じたことが「私たちの身体は食べたものの以外の何物からも作られていない」ということです。

もつと食に対する正しい知識が必要という思いから、二年前化粧品メーカーを退き、健康食品管理士の資格を取得。「美容・健康アナリスト」として、企業やスポーツジムの他、地域団体、看護師協会、保健師協会などで美容と健康の講演を行っています。

ここで、簡単に「太らないカラダ造り」のポイントを幾つか挙げてみましょう。

①BMI(体格指数)を認識する。
体重(Kg)÷身長(m)÷身長(m)＝22.2...この数値が最も健康的で疾病を起こさない数値。

この式に身長を当てはめて理想体重を出す。
(18.5～25)この域から出たら問題あり!

②体脂肪を毎日測る。(同じ時間に測る習慣を持つ)。
体脂肪率・・・男25、女30以上は肥満。

③G・I値(グリセミック指数)の低い食品から食べ始める。
空腹時に急激に血糖値が上がる食品を食べると、インスリンが分泌されて血糖値を下げる。結果、中性脂肪として保存されるので肥満につながる。さらに血糖値の乱高下が糖尿病につながる。(G・I値とはインスリン分泌の速度を表した数値で、糖尿病食に利用する)。フルーツはインスリンの分泌なくして細胞に取込みできるので、食事の最初はフルーツから!

④ゆっくり食べる。
30回以上の咀嚼が健康の秘訣。しっかりと、ゆっくり、じつくり噛むことで、満腹中枢が刺激を受ける。早食いは肥満の元と認識する。

⑤夜は9時までに食事を終らせ、寝酒はやめる。
PM10時～AM2時が細胞修復の時間。若返り、健康のためのゴールデンタイム。

それまでに消化活動が終了するのが理想。また、寝酒は睡眠の質を落とす。

⑥酵素を積極的に摂る。(代謝アップに酵素が必須)。酵素はアミノ酸からつくられる。材料は生(60度以下)に限られるが、発酵食品も酵素の材料になる。生野菜、果物、刺身、納豆、ぬか漬け、みそ、しょうゆ、ヨーグルト、これらを積極的に摂る。体中に酵素は3600種類もあり、消化や解毒、分解や合成と体内のあらゆる化学反応に必須である。酵素がたくさんあれば「機能が高いカラダ」「若々しいカラダ」ということになる。

酒井会計事務所

AFP
税理士

酒井 久幸

(昭和25年卒)

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町
1-32 福原ビル3F
電話 (03) 3255-8995

洋光繊維株式会社

代表取締役

木村 貞寧

(昭和25年卒)

〒130-0004 東京都墨田区本所4-9-10
電話 (03) 3623-3176

食事の順番を意識し(G・I値)、食べ方(ゆっくり)、そして時間を調整し(9時まで)、寝酒をやめて、酵素の材料(生野菜、果物など)となるものを摂取し、いつまでもイキイキ元気に過ごしてください。

近況報告

六十年卒

安井 年文



【略歴】
西城町出身。筑波大学、同大学院体育研究科終了。青山学院大学、筑波大学勤務。現在青山学院大学教育人間科学部教育学科准教授。日本陸連強化委員、日本陸上競技学会理事他で活動中。

皆さん初めまして。この度役員の方から依頼があり、若い世代の近況報告をさせていただくことになりました。若い世代と言ったときか若では判断しにくいとは思いますが。故郷西城を大学進学と同時に離れ、既に二十五年が経っています。四十代の中年ですから高校時代の頃を思い返すのも随分色褪せた感があります。

高校在学中の思い出はなんと言っても部活のことでした。陸上競技部ではほぼ毎日練習に明け暮れていました。グラウンドを一周走るのも様々な部が練習をしており、テニス部、野球部、ソフトボール部、サッカー部の横を走り抜けていくのは恐怖との戦いでもありました。

中学から陸上競技を部活でやっていましたが、高校ではかなり衝撃的な意識革命を受けました。顧問の先生は若くて全国でも優勝経験のある女性の方で、かなり徹底した指導方針でした。ほぼ毎日練習するといったある種の「一流スタイル」など私の頭の片隅にもありませんでした。その先生は一年生の時だけ指導をいただいた後異動されましたが、そのスタイルはずっと続き、私も三年生の時には全国大会で二位になることができました。思えば中学校で少し速く走れただけの自分がここまで行けるとは想像していませんでした。

進路も長男ということもあり、地元の国立大学を目指し、教員として地元の高校に赴任できれば上出来といった考えしか無かった私でしたが、思いがけなく違った夢を見るようになったのも成り行きなのでしょう。

その後茨城の大学に進学し、陸上競技の専門家になるべく様々な勉強をしながら、気がつくとい今の勤務先

の青山学院大学で教鞭を執っていました。大学で指導、教育しているのも高校時代の時に目指した道を追い求めた結果なのかもしれません。

現在は青山学院大学教育人間科学部という部署で教員として奉職し十年以上経ってしまいました。大学の授業、研究論文の作成、研究発表などはもとより、今まで取り組んできた分野である大学の陸上競技部の短距離ブロックの指導に重きを置いて取り組んでいます。幸いにも今年の秋に開催されるアジア競技大会に教員の卒業生が出場することになりました。何かの機会があれば是非見ていただければ幸いです。

最終的には自分が果たせなかったオリンピック選手を輩出するが夢です。

私のような年代を始め、様々な年代との交流が持てるような活動になること、とりわけ若年層においては何かしら上の年代とつながりを持つことで、有意義な情報やご示唆をいただけたといった魅力ある活動に発展させていただければと存じます。勝手なことばかり書いてしまいましたが最後に会の関係各位にお礼申し上げます。

特別寄稿

格致高校の思い出

元庄原格致高校教師
大石 武司



【略歴】

一九三四年福山市生まれ。戦災により広島市安芸区に移住。福山空襲を体験。原爆投下を目撃。旧制広島一中在学中、高校再編で海田高校へ。広島大学英文科卒。庄原高、格致高など公立高校教諭を三十八年。現在廿日市市在住。

私が庄原高校に赴任したのは、昭和三十三年のことだ。まだ貧しい時代で、戦争の傷跡が残り、片親や引揚者の子もいて、修学旅行にも行かない子が多かった。卒業記念アルバムを作るようになったのも次の学年からだ。特攻帰りの教師もいた。

総合性、学区制、男女共学の三原則による高校再編成で、格致高校は庄原実業と合併して、比婆西高校、校名変更で庄原高校になった。二十五年度の三日市校舎全焼で、授業は実業の校舎で行われていた。

普・家・農・畜・林の五課程と比和・高野山、口和・本田の4分校を持つ県下最大の高校で、寄宿舎や

農場、牛舎もあった。校舎の間を県道が通り、雨降りには傘を差し、上履きを持って教室を往復したものだ。

庄原は風光明媚な田園都市で、桜の名所上野公園と今は備北丘陵公園の一部になっている。国兼池がある。思春期の生徒にとっては「愛と認識の出発」の倉田百三の文学碑のそばに立つて、上野池の美しいふりを眺めるのは、心のやすらぎとなったことだろう。

（寄付をしたので、改修記念の銅版に昭和三十三年庄原格致高校大石学級の名が刻んである。予備校のない田舎は、受験競争に不利だ、進学希望の生徒は入学時から、切磋琢磨せよと、ベスト＆ブライテストのクラスが作られ、私はそのクラスの担任になった。

平和な田園風景の中にも、生活の葛藤はある。高校生にとつて、それは学校の成績であり、学校間格差であり、普商工農と言われる差別がある。普通科と職業科の間では、いろいろなことがあって、受け持ちの生徒が三年になった時、格致と実業に分離することに決定した。次年度から、三日市の新校舎で授業が行われることになり、生徒達は大喜びで、机や椅子を新校舎へと運んだが、新しい教室には入ることなく卒業していった。

庄原は教育熱心な土地で、明治十七年には庄原英学校が創立され、ランバス父子を招いている(息子は後に関西学院大学を創った)。だが、時代が早すぎて、わずか八年で廃校となった。英学より儒学が時代にマッチしたのだらう。明治三十年漢学者小田源吉が創立した私塾格致学院が、庄原格致高校の起源となる。それは三次高校の前身、県立尋常第三中学校が創立される前年のことだから、卒業生が誇り高いのも当然だろう。格致致知(学問を好み、徳を重んじる)を理念としてい



現校舎全景



旧校舎正面玄関にて(昭和34年)

体がよろこぶ! 「効く」漢方の正体

東京庄原
格致会会員が
上梓しました

薬剤師 恵木 弘著 (株)東洋薬行社長 定価 1050 円(税込)

例えば力ぜに効く葛根湯、10社以上から同名の商品が出ているが、品質は千差万別。当然、効果もまちまち。漢方生薬の品質を40年以上研究してきた筆者が、今まで誰も語らなかった、知らない損をする「効く」薬の選び方を指南する。

お求めはアマゾン(www.amazon.co.jp)かお近くの書店まで



西葛西・井上眼科病院

東京女子医大名誉教授

院長 宮 永 嘉 隆 (昭和28年卒)
医学博士

〒134-0088 東京都江戸川区西葛西5-4-9

TEL 03-5605-2100 (代)



今年の冬に、三ヶ月にわたってNHKの取材を受けました。地域に密着して撮影活動をしていることが評価されたようです。一月・二月・三月、私たちの活動

石田香織
写真部長

NHKの取材をうけて

母校だより



この歳になっても、元気で、教え子の皆と楽しく青春時代を懐かしむことができるのは嬉しい。

だが、やがて入学時から卒業まで、三年間一緒に学び遊んだ生徒が卒業して、庄原を離れる。淋しかった。神経性の腸炎になった。長い間学校を休むことになり、休み明けには、張り詰めた心はなくなつて、授業は適当に遊び半分にならざるを得ない。すると世の中は分らない。先生の授業は面白く、ワルの連中にも人気が出てきた。田舎の子は純粋で情が厚い。地元に残ったものが多いこの学年は、担任でもなかったのに、クラス会の時には呼んでくれる。

我がクラスの卒業生は、地元広島、関東、京阪神と散らばっている。各々各地で何と毎年！場所を変えてクラス会を行っている。今年は福山の軈だった。喜寿を迎えた今年は夫婦で招待された。有り難いことだ。

春は七塚原での新入生歓迎遠足、光市室積での臨海訓練、秋の遠足、冬の三井野原でのスキー学校、運動会や学園祭と、学園生活は楽しかったが、勉強もよくした。夏休みの間、ほとんど補習授業があった。若かったし、生徒とは毎日一緒に遊んで、楽しかった。下宿に酒を持参した生徒がいた。この寒いのに酒でも飲まねば、勉強できない」とうそをいっていた。古き良き時代だった。

日本とトルコとの交流をしている組織から作品展示の依頼もありました。承諾して、全紙三十枚が六月上旬にトルコのアンカラで展示されました。広島カープ球団から「MAZDA スタジアム」に撮りに来い。何回来ても弁当付きで入れてやる」というすごい話もあります。中間試験が終わったら、庄原カープ応援の方とともに広島に出向き、とりあえず一度撮ってくることにしています。また、文化庁主催の日中高校生写真交流事業というのに二年生三人が立候補したら、思いがけず二十人の中の代表団に選ばれました。十一月に北京に行くことになっており楽しみです。

まずはじめに、一つの番組を創り上げるための粘り強さです。写真部の撮影時はもちろん、私たちや先生の自宅まで来て撮ったり、ちよつととした部会の折にも必ず広島から来て、ミーティングや写真セレクトの場面をハンディカメラで撮っておられました。次に、映像のセレクトという事です。この間、特にドラマチックな場面が展開したはずはないのですが、オンエアされた番組では、沢山撮った中から実にいい場面が巧みに切り取られ、ドキュメンタリー仕立てになっていてすばらしいと思いました。その被写体のすべての側面を沢山撮って、その人の素晴らしい典型的な所だけをピックアップし作品化する。それは動画でも静止画でも同じことです。NHK番組の反響も沢山ありました。多くの激励のお手紙やカンパ、そしてカメラを送ってくれた方もおられました。

そのNHKの若いディレクターの方に取材を受けて学んだことがあります。

に絶えずテレビカメラがついてまわるという状況で緊張しました。そして三月二十二日にドキュメンタリー番組「ホリデー」に「ふるさと」心に刻んで、高校写真部それぞれの旅立ち」が放送されました。



写真部の作品展示会—庄原ジョイフルショッピングセンターにて—

本校OB落語家の 林家ひろ木さんが出演

庄原格致高等学校 教頭

清水俊明

去る五月二十二日(土)・二十三日(日)に格致祭文化の部を実施しました。その一日目に東城町の生まれで、本校OBである落語家の林家ひろ木さんに出演していただきました。林家ひろ木さんは、早稲田大学在学中に当時林家木久蔵(現林家木久扇)師匠の落語を聞き、その出会いがきっかけとなり、八年前大学卒業と同時に木久蔵門下となりました。現在は、三百六十五日働きつづめる下積み時代を経て、羽織を着ることができ、落語の勉強も付けにすることができ、二目という時代を迎えられておられます。

講演は、高校時代の思い出から始まり、今思っていることについて、生徒・先生を交えての落語教室、そして古典落語と新作落語の二作の落語を披露され、最後に余興として三味線を演奏されました。皆の笑顔が会場中を満たし、あつという間に一時間が過ぎました。

●生徒の感想から
●僕は落語を実際に聞いたのは初めてでした。とても感激しました。とても身近な話題をみんなにおもしろく話ができるなんて素晴らしいと思いました。これからはテレビなどを通して落語を見ていきたいと思いました。

●「古典落語は話し方ひとつで、その場面や登場人物の雰囲気伝わってきてもとてもおもしろかったです。落語が古くから人々に親しまれていることを改めて知りました。また落語と言えは古いお話と言うイメージでしたが、「新作落語」を聞いてイメージが変わりました。機会があればこれからも落語を聞いてみたいと思います。

●林家ひろ木さんの話の中で、私が一番心に残ったのは、「一度きりの人生、どうせなら好きなことをして生きよう」またやりたい事を決めるまでは、悩んでいいよ。その代わり決めたらそれを一生懸命やらなくてはならな



熱演中の林家ひろ木さん

JEWELER
miwa

東京都中央区銀座6-7-2
TEL. 03-3572-5011
<http://www.miwaj.com>

株式会社 龍 寿司

代表取締役 椎名 喜多子
(旧姓 室伏) (昭和31年卒)

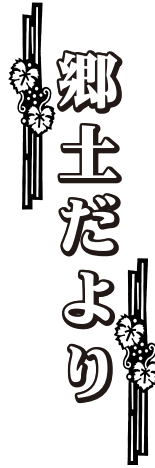
東京都中央区卸売市場内・1号館

TEL/FAX 03-3541-9517 営業時間/午前6:30～午後2:00
TEL 03-3547-6894

(予約はお受けしておりません。日曜・休日等市場が休みの日は休業致します。)

い」という言葉に感銘を受けました。これから進路を決めていかなければなりません、自分としっかり向き合って自分の人生をより良いものにしていくと思いました。

●落語の世界にも階級があるというのを初めて知りました。しかもすごく厳しいということがわかりました。私だったらまずい木久蔵ラーメンを完売させることは無理だと思ひ、休みもなくずっと毎日師匠の家を掃除とかできないと思ひました。しかし、こうした下積み時代の一番大事だということもわかりました。



郷土だより

庄原上野公園の
近況について

昭和三十七年卒 三次市在住
森 永 正



東京庄原格致会の皆様は、上野公園といえば上野動物園・上野美術館がある東京上野公園をイメージされることと思います。広島県北に住んでいる者にとつて、上野公園といえば庄原上野公園のことです。皆様がここ上野公園で満開の桜の下でお花見をされたのは何時ごろのことでしょう。

今年の四月十一日、昭和三十四年庄原中学卒業生で広島及び近県在住の同級生が集まり、定例の第四回花見会を上野公園で行いました。三十二名の参加で「花より雑談に花が咲き、楽しい一日でした。約六割は庄原格致高卒業です。中には半世紀以上を経た上野公園での花見会という人もいました。

遠く故郷を離れ、関東地域にお住まいの東京庄原格致会の皆様は昔の上野公園を覚えておられますか。今の上野公園は私たちが小学生の昭和二十年後半ころとは様変わりしています。子供のお登り遊んだ千代松はありません。周

囲をとりまいていた桜並木は世代交代をし、老木はわずかしが残っています。二軒あった貸しポート屋は廃業されました。泥んこの凸凹道もありません。池の周囲は遊歩道ができ、朝夕は健康ウォーキングの市民の姿が見られます。

上野公園と同じ名前の公園が東京上野にあること知ったのは小学校高学年のころと思います。庄原上野公園の名前の由来はよく知りません。子供のころ上野公園近くに上野さんという家があり、上野公園と関係があるのかなと思っていました。

上野公園の排水口にかかる木橋の名前は「きよみ橋」とあり、クラスメイトに「清美」君がいたの思い出されます。先日、橋の名前を確認に行く、新橋と旧橋が平行にかり、旧橋にはかすかに「きよみはし」の文字が残っていました。

上野公園の瓢山（前方後円墳）の近くに倉田百三氏の歌碑があります。ご存知のとおり、倉田百三氏は庄原町出身の方です。同級生に倉田百三氏の血縁の方がおられ、記念碑（歌碑）の除幕式に出席したことも懐かしい思い出です。また、倉田百三記念館が庄原園文化センター内にあります。

上野公園の桜は「日本のさくら名所百選」に選ばれ、校歌にもある上野池に映える夜桜は昔ながらの風情を保っています。一時期桜木が枯れはじめ、桜の名所とは名ばかりになりそうなる時期もありましたが、平成十五年より庄原市が「上野総合公園さくら改修工事」をスタートさせ、庄原観光協会が、桜再生にける植樹費用を「さくら募金」として募った結果、千三百九十八万円の寄付が寄せられ、現在も改修は続いています。庄原格致高校の同窓会の方々も募金に応募され、「さくら改修記念ボード」には多くの名前が刻んであります。

東京庄原格致会の皆様、来年の桜満開の季節（四月十日ごろと予想）には、是非お帰りになり、上野公園の桜を満喫され、近頃の散策をお楽しみください。



「上野公園」 新山千樫氏(37年卒)撮影

火村さん

昭和三十七年卒 庄原市川西町在住

伊 達 緑



東京庄原格致会の皆さん、如何にお過ごしですか。皆さんは庄原にある「火村さん」の碑のお話を知っていますか。実は私も知らなかったんですが、最近ある会で調べたんでお報告して見ようと思ひんじやけど……

この碑は一般的には「火村さん」の名で親しまれていますが、正式には「火村霊神之碑」とあります。昔、千六百年代の初めの頃、広島城主福島正則が領内の巡視で、家来を大勢連れて庄原地方へやって来た時のこと。小川の辺で休息していると、草むらから鳥が飛び立ったので、家来の木村某が一羽の鳥を指して、「殿、羽斑鳴（はまだらしき）」（羽根にまだ模様のあるシギ）がおります。早くお撃ちなされませ」と申し上げた。

ところが、この正則という人は若い時から鼻が悪く、鼻をたれていたたので、「はまだらしき」を「はなれしき」と聞いたから大変。「おれの家来の分際で、わしにはなたれとは何事だ。者ども、こやつを火あぶりにせい」となりつけた。

こうなると短気な正則、いくら弁解しても、他の家来が許しを乞うても無駄だった。ついに何の罪も無い木村氏を火あぶりの刑にしてしまった。

「火村霊神之碑」の碑文によると、「木村氏が火あぶりの刑になって後、庄原の町に度々大火が起ころるので、これは木村氏の祟りだろうということになり、地元の人達が協力して社家に乞いて其怨霊を鎮祭し、「火村霊神」として崇め、西浦に一小祠を建て春秋祭祀を行なったところ、其の後、火難全く止み、町内安穩に帰したという。それ以来、火難病災の守神として一般の崇敬厚く、諸々の祈願に対して、霊驗顯著なりと言ひ伝えられている」そうです。

この碑文にあるように、もともとは本町西浦にあったのだそうですが、現在は上野池入口、備北地域事務所庄原分庁舎前の交差点脇にある桜の木の下、石垣を巡らした中にあります。

春は桜に続いてつじ、秋は紅葉がきれいです。西浦にあった祠が荒廃しているのを惜しんだ宮の下組の人達の手により、昭和五年に現在地に移されたものだそうです。地元のおばあさんの話によると、地元老人会の世話で、毎年春には丑寅さんの宮司を呼びお祭りをし、毎月一日にはお参りをされている

創業31年



二階堂調剤薬局
グループ

二階堂調剤薬局
まへの薬局
北口店

大山調剤薬局
グリーンファーマシー

代表取締役 薬剤師

石 井 美佐子

(旧姓 瀧口) (昭和48年卒)

東京都板橋区南常盤台 1-30-21

TEL 03-3958-9955

そうです。
「今度庄原に帰っちゃた時に、ひまがあったらちょっと行ってみてえね」
「はいじゃあ皆さん、体に気をつけて元気で暮らさんさいや」



今の庄原駅舎 (駅員一人、さみしくなりました) 森永正氏 (37年卒) 撮影

同好会だより

「バス旅行同好会」第八回日帰りバス旅行 再び笠間焼きに挑戦

三十三年卒 森 沢 進

八回目を迎えた日帰りバス旅行を、去る六月二十日(日)に開催しました。女性三名を含め十七名の参加のもと、「楽しかった」と喜ばれながら無事終ることができました。

今回のメーンは、室伏先輩のお世話により、第四回に続き茨城県笠間工芸の丘にある「ふれあい工房」において、各自がロクロ体験をして自前の陶芸作品に挑戦することでした。



登り窯の前で

事前に用意されたロクロに向かい、各自真剣に泥と戦い、完成品を目前にして歓喜の声が木霊しました。
二時間に及ぶロクロ回しが無事終了し、楽しみな昼食を兼ねて那珂湊のおさかな市場に移動、新鮮な魚介類を陳列したお店が並び、買い物客で賑わう中、刺身の盛り合わせを中心とした美味な料理を堪能しました。お酒も入り、お腹も満ち足りた後、市場でそれぞれ土産の買い物をしました。
次の目的地は開港して間もない茨城空港の見学です。空港に到着し駐車場には結構車は止まっていたものの、空港ビルから飛行場を見下ろしても飛行機の姿は見当たらず、少し整備された野っ原の感じでした。それでも大勢の見物客で賑わっており、不思議な気持ちでバスに乗り込み一路東京を目指し帰路につきました。
バスの中では、恒例のカラオケ大会が始まり、時間の経つのも忘れて自慢の喉を競い合いました。
この日は梅雨の時期でしたが、天気心配もなく、絶好の行楽日和となり、人生に新たな思い出を残す旅になりました。
今回のバス旅行を企画いただいた室伏、兼利両氏に参加者一同感謝いたします。
次回以降、大勢の皆様のご参加をお待ち申し上げます。なお、今回の皆様の力作は十月二十四日の総会会場に展示し、出席者の投票で優秀作品を選ぶ事になっております。

「ゴルフ同好会」第四十二回コンペ 古希を迎えて迷い続ける 私のゴルフ

三十三年卒 生田 八洲 紘

私がゴルフを始めたのは四十歳前後で、ゴルフ歴三十年ということになります。しかし、まじめにこの難しいスポーツに取り組み始めたのは、自宅のある千葉県船橋市から九十キロ離れた、栃木県の一宮町、筑波山の裏に会員権を購入した昭和六十一年頃からです。以後二十五歳の歳月が過ぎました。記録は平成二年から二十一年間残しております。今回本稿を書くにあたり、記録を改めて見直しながら、私の過去を東京庄原格致会の皆様に白状することを躊躇しております。しかし、正直に白状しないことには、この歳になっても迷い続ける「ゴルフファターの悩み」を理解して貰えないものと思ひ、公開することを決意しました。

記録によりますと、年間のプレー回数は最高三十六回、最低十二回、平均は二十七回であります。この間の平均アベレージは、平成二年の九十八・七(パター数三十五・八)からスタートし、平成二十二年までの二十一年間に、平均アベレージ九十三・七(パター数三十五・四)です。何と二十一年間の精進で、ストロークで五・〇、パターで〇・四の進歩。この間私は何の努力をしてきたのか。消費した時間とかかった費用を考えると何と無駄な努力を続けてきたことか。夜明けの早い初夏、近所の空き地でのアプローチの練習、冬の夜、火の気の無い部屋でのパターの練習、いま改めて二十一年間の無駄な歳月がむなしくなります。

ゴルフを始めた頃、勤務先の先輩からの忠告を思い出します。「ゴルフはどんなに練習しても、始めた時の年齢より良いスコアは出ないものだ。君も今の年齢からしてハンデリー八がいいところだろう」。坂の上の雲(シングル)を目指してただひたすらボールを打ち続けてきましたが、この二十一年間の記録から先輩の見通しは正しかったことになりました。年間二七回もプレーすれば、八〇台のスコアが出ることは五、六回に一度位はありますが、なかなか難しく、この間なんとか年間平均ストローク九十に近づいたのは六一歳の時の九・九(パター数三六・三)だけでした。一〇〇を超えるスコアで二時間半もかけてホームグラウンドから帰ってきた日、家内から不甲斐無い結果を問われ、「もういいかげんにあきらめたら」と軽蔑のまじった言葉を投げかけられ、口答えする気にもなれず、失敗の場面を思い出しては反省しきり。



庄原さくら温泉

かんぽの郷 庄原

〒727-0004 広島県庄原市新庄町281-1

TEL.0824-73-1800 FAX.0824-73-0100

<委託運営会社> 株式会社サンヒルズ庄原

会長 和 泉 雅夫 (昭和34年卒)

社長 長谷部 泰士 (昭和48年卒)

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

ガーデン&エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ



株式会社 八王子装建

代表取締役 西 谷 光 徳 (昭和46年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応

八王子市市安町1-32-19

TEL: 0426(45)4295 FAX: 0426(44)8549

URL: <http://www.h-soken.com/> E-mail: nisitani@h-soken.com

